

18-1 授業解題

島名：グローバル・エシックス

教科（領域）：道徳

単元（教材）：「小さないのち」（資料名「虫が大すきーアンリ・フェアブル」）

対象：附属桃山小学校 2 年 2 組

授業者：平岡信之 先生

1. グローバル・スタディーズの観点からみた本授業の「強み」

○本授業は、2018 年度（今年度）より完全実施となった「特別の教科 道徳」（以下「道徳科」）検定教科書所収の教材に、グローバル・エシックスの観点から分析・解釈を加えることで、グローバルな道徳科授業を実施しようとする意欲的かつ時宜を得た取り組みである。

○本授業では、日本文教出版「小学どうとく 生きる力」2 年生のアンリ・フェアブルの伝記的教材を使用している。本教材で扱うことを企図されている道徳的価値は、「自然愛護」であるが、それと同時にフェアブル少年の真理への探究心に着目している。生物学を含む科学は本来的に、国や文化を超えた「真理の探究」という共通の価値の上に営まれているが、このようなグローバルな（道徳的）価値、そして同じくグローバル世界の共通の課題としての自然環境問題への関心という 2 つの焦点を同時に追求することで、よりグローバルでダイナミックな「考え、議論する道徳」を展開した点に、本授業の「強み」がある。

○また本授業は、同じ日文教科書に所収で国際理解を主題とした教材「タヒチからの友だち」および「ハンナのなみだ」とともに一連のシリーズを成している。グローバルな思考・判断・表現を可能にする、道徳科のスコープとシークエンスの自覚的な構成例としても注目に値すると思われる。

2. グローバル・スタディーズのカリキュラム開発にむけて

○グローバル・エシックスで蓄積されてきた授業開発の 2 つの柱として、①人類共通の価値に気付く、②グローバル世界の価値葛藤に主体的に参画して考え議論する、がある。この観点から言えば、本授業は①に軸を置いたものと位置付けられるが、小学校 2 年生という発達段階を考えた場合、至極妥当と言えるだろう。他方で、2 年生段階でどこまで②の追求が可能かということは、カリキュラム開発・授業開発において 1 つの積極的な論点となると思われる。

○実際本授業は、価値葛藤として提示することも可能である。生物学的真理の探究は、動物（昆虫）実験など生命の犠牲をしばしば伴うため、その点を真理探究と生命尊重の価値葛藤授業として構成するという選択肢もありえる。児童の道徳性発達について慎重な観察・分析・判断を必要とするチャレンジングな構想とも言えるが、動物倫理はグローバル世界の重要課題となっていることもあるため、敢えて付記しておきたい。